

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191700093		
法人名	有限会社 ファミリーライフ		
事業所名	グループホーム楽々荘		
所在地	鴻巣市下谷1448-1		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成30年2月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さん一人ひとりの気持ちを尊重し、充実した日々を過ごせる様に努める。
--------------------------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気のもと、自由でのびのび暮らせる支援が職員間で共有され、過度な介助をせず利用者のできる力を伸ばせる取り組みが実践されている。また、地域のイベントには積極的に参加し、語りべの話を地域の方々と一緒に楽しめるなど、地域との交流に力を注がれている。</li> <li>・運営推進会議では、年度初めに開催予定が決められ、平日に限らず週末にも開催するなど参加しやすい工夫がなされ、多方面からの参加が得られている。事業所の課題を話し合ったり、地域情報を共有するなど、運営に反映されている。</li> <li>・目標達成計画についても、避難訓練を運営推進会議と一緒に開催し、地域からの協力が得られるようになったことから、目標が達成されている。</li> </ul>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に職員の目に留まる場所に掲げ、意識しながらケアに努める。	家庭的な雰囲気のもと、利用者一人ひとりの尊厳を守り、それぞれのできる力が発揮できるよう支援をされている。毎月のミーティングで意見を出し合い、理念に基づいた行動の振り返りが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント等には極力声掛けて地域の方々との交流に努める。(例)夏祭り・菊まつり・文化祭等の参加	散歩時の挨拶や野菜の差し入れ、お米を譲っていただけするなど近隣との関係が築かれるほか、地域の夏祭りや菊まつり、文化祭などには積極的に参加をし、交流を図られている。また、語り部の話を聞く会を開催し、地域の方々と一緒に楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事には積極的に参加するようにして、認知症の理解に努める		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議実施にて、意見交換し、サービスの向上に努める。	運営推進会議の年間予定が決められ、平日に限らず週末にも開催するなど参加しやすい工夫をされている。事業所のイベントのありかたや職員不足などを議題とし、参加者からは様々な意見や提案をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や他の施設と連絡をとりアドバイスを頂いたり情報交換をしながらより良いケアに努める。	市の担当者や地域包括支援センターからは運営推進会議でアドバイスをいただくほか、申請時や報告などの機会にコミュニケーションを図られている。成年後見人制度の手続きは行政と連携しながら進められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行わないケアに努める。またミーティング等にも身体拘束の話をしている。	毎月のミーティングでスピーチロックなどの言葉の拘束を含めた指導をされ、職員の意識の統一が図られている。また、不穏な行動には寄り添う介護で落ち着いて過ごせるようになるなど、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や介助の際には、体調に異変が無いが確認し、変化の見落としが無いように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今回該当する利用者さんがいて、市役所の方々の尽力にて、後見人の方が決まる。時間は、かかりましたが、参考になる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行い、理解・納得を得て契約頂く。疑問・質問等が生じた場合にも即対応に努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望や苦情等の相談窓口はいつでも開いており、早めの対応に努めています。	家族からは、体重を減らして欲しいとの要望があり、食事量を減らすなど対応をされている。利用者とはケアプラン作成時に意向を聴き取り、「食べたい、出かけたがたい」などの要望には外出を多くするなど反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング事には、意見、要望等を聞く時間を設けて早めの反映に努める。(出来る限り全員の参加)	ミーティングで日頃の気づきやアイデアなどの意見を出し合い、ケア方法などについて統一を図られている。イベントや外出などは職員配置を固定せず、意見が出しやすい環境づくりに努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	笑顔のある職場環境を心掛け、無理のない勤務状況の把握、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トレーニングが出来るようにローテーションを調整し、職員のスキルアップを支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会に多くの職員が参加できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望に対し、本人が安心して生活できるよう家族と連携し共に考え、対応に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や要望を把握し、良い方向に導くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、場合によっては他のサービスを紹介したりするよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話を同じ目線で行うようにし、他の利用者と関係を深める努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等を家族と共に楽しんで頂けるように企画しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人には気楽に来荘して頂けるに心掛けています。	友人、知人と外食に出かけたり、ボーリング場や遠方まで墓参りに行くなど、馴染みの人や場との関係継続の支援をされている。また、洋裁や編み物、紙細工など、今までの趣味の活動を継続される利用者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大勢で楽しめるゲームや体操等を心掛け、孤立を生まない様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退所された方にも時々訪問したり、電話連絡をとったり、イベントに参加して頂いたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や行動の中から思いや意向を汲み取り支援に生かしている。	日頃の何気ない会話のちょっとした言葉を逃さず、妻の墓参りに行きたいとの思いには、遠方でも対応されるなど、思いの実現に努められている。散歩や入浴などの1対1の機会を捉え、日頃言えない気持ちの汲み取りをされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの背景、生活歴を把握し、一人ひとりが明るく生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の体調や気分に応じて一日の過ごし方をその日のスタッフ同士で相談しながら取り組んで頂く。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー、管理者、スタッフ、利用者、家族と共に話し合いミーティングにも取り上げより良いケアに努める。	利用者、家族の意向、担当職員からの意見をもとにサービス担当者会議で話し合い、現状に即した介護計画が作成されている。友人と食事に出かけたり、紙細工の創作活動を継続するなど、具体的な支援内容が盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記入し、共有することで良いケアの方向性を探る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに合った対応を心掛ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	野菜や草花の種まき・収穫作業を手伝い、共に作る喜びを感じながら食す。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医による診察を定期的に行われる様に支援しています。	入居時に従来のかかりつけ医の継続について説明されている。法人オーナーの医師には随時相談することができ、専門医受診が必要となった場合は、医療機関連携が図れ、安心できる医療体制が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	代表者が経営している病院で看護職にも気軽に相談が出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	代表者が医師であるため医療関係と連携をとり適切な判断が下せるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関係者同士の話し合いを密に行い、家族の負担軽減に努めています。	入居時に事業所の方針を説明し、状態変化時には医師の意見、家族の意向を良く聞いて話し合い、その後の方針の統一をされている。医療行為が必要となった場合、事業所としてできる限りの対応をし、次の施設や病院に繋げられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	代表者(医師)に連絡し、指示を仰ぐ。緊急時の連絡網に沿って速やかに対応行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練(通報訓練、避難誘導)等を定期的に行っています。地域の方にも緊急の連絡網に掲げ協力体制になっています。	運営推進会議開催時に避難訓練を実施することで、地域の方々からの参加が得られ、参加者全員が消火訓練を体験されている。職員の喫煙所があることから、万が一の心配があり、職員の意識を統一することが課題となっている。	いざという時に利用者が避難できる方法を全職員が身に付けなければならぬと想定されることから、すべての職員が訓練に参加し能力を高めることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、性格や背景を踏まえた上で、丁寧な対応に心掛けています。	入室時にはドアをノックしたり、排泄や入浴は過度な介助にならないよう自立支援に努められ、羞恥心やプライバシーに配慮した対応をされている。また、馴れ合いの言葉づかいに注意が払われ、定期的に振り返りの話し合いが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望は、できるかぎり叶えられる様に心掛けています。特に外食は喜ばれます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、職員側の都合を押し付けず希望に沿えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的なヘアークットに心がけ衣類も片寄らない様にコーディネートに努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんに出来ることはやって頂き、共同作業に努めています。	職員手作りの家庭的な食事が提供され、利用者には、買い出しや下ごしらえを手伝っていただいている。回転ずしなど月1回の外食の企画や手打ちうどん、おやつ作りを楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスには、十分気使いして、水分量も必要量確保できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後には洗面所にて歯磨きを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に一人ひとりの記録を記入し排泄パターンや習慣を把握し、支援しています。	できる方にはなるべく自分で行っていただくなど、排泄の自立に向け努められている。また、繊維質の食べ物や牛乳などを多く取り入れ、自然排泄に繋がるよう取り組みをされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や飲食物を工夫したり、体操を行ったりして予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎週、月、水、金と曜日を決めて当日の体調を考慮し本人の希望に沿う様にしています。	週3回の入浴は、午前、午後のどちらでも入浴ができるよう支援をされ、一番に入りたい、長湯を楽しみたいなど個々の希望や生活習慣にも応じられている。利用者とは1対1でコミュニケーションを深める良い機会として会話を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に影響のない程度の休息の見守り。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の詳細は個々のファイルにあり、服薬の支援と症状の変化は確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	必要なものは家族に届けて頂いたり、趣味の必需品等の買い物にお連れしたり、日々楽しく遅れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのイベントやドライブなどに参加する機会を多くして自然を感じる時間を大切にしていきたい。	日常的な散歩や買い物、食材の買い出しと一緒に出かけるなど、できるだけ外に出かけられるよう支援をされている。また、季節の花見やイルミネーション、ひな祭り見学など、季節が感じられるような外出を企画されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭所持はありませんが、お預かりしている小口で買物をして頂くように心掛けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話連絡のやり取りが出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	くつろぎの空間を工夫しながらホールにいても季節感を取り入れた飾り付けを掲示しています。	周りは田園風景が広がり、のどかでのんびりと過ごせる雰囲気作りをされている。広々とした共用空間では、歩行訓練や体操など、利用者の身体機能の低下予防に努められるほか、手作りの紙細工や編み物に熱中する姿が見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファにくつろいで日向で暖を取ったり、編み物・読書等を楽しんだりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を自由に持ち込むことが出来、居室の掲示物も利用者さんと共に飾り付ける。	紙細工の作品やオートバイの模型、カラオケ大会のトロフィーなど、それぞれの思いの詰まった物が飾られている。紙細工の作品をたくさん作り、面会に来た友人にプレゼントするなど、張り合いを持った暮らしができるよう支援をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自、表札を付けて、トイレには使用中の札を付けて、分かりやすく工夫しています。		

事業所名 グループホーム 楽々荘

作成日: 平成 30 年 4 月 16 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	利用者同士の関係の支援	一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努める。	全員で参加できる行事を計画する。 (運動会、ミニ遠足、外出等) また、オレンジカフェ、はつらつ健康等の参加。	12ヶ月
2	35	災害対策	消防訓練(通報訓練・避難訓練)等の全職員参加。	全職員参加を繰り返し、体験回数の積み重ねに努め、万一来に備える。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月